

～ 高島第一中学校の環境に関する取組 ～

環境教育・持続可能な開発目標 SDG s 教育の推進



板橋区立高島第一中学校

～ はじめに ～

本校は、2022 年 11 月にユネスコスクールに認定されました。持続可能な開発目標 SDGs の実現に向けて、環境や防災について外部機関との連携を図りながら、SDGs を理解し、環境に良い取組を実践する SDG s 教育を行っています。今年度、本校が実践してきた活動をまとめましたので、ご紹介します。



テーマ：

限られた資源を無駄なく使う。

そのために、

「知ること」から始め、

次に、

「知ったこと（学んだこと）を伝え」、

次に、

「できること」

から

はじめています。



1. 自然環境について考える。

(1) 宿泊行事の行き先について理解する。(第7学年)

7年生では、宿泊行事の行き先である長野県環境について調べる学習を行いました。

調べた内容について

1. 気候、気象、天文
2. 地形と地質
3. 作物（農業）
4. 歴史や文化財
5. 植物
6. 生物（動物や昆虫）
7. その他



その際に、板橋区についても同じ内容を調べ、理解を深めました。生徒が作成した資料の一部を紹介します。

Q.富士見高原ではなんの作物を作っているの？

A.セロリ、トマト、パセリ、ブロッコリー、レタス、キャベツ、
キク、カーネーションなど です！！

出典 デジタル農活信州「富士見町の就農関連情報」
<https://www.noukatsu-nagano.net/farming-info/fujimi/>



板橋区の農業も見てみよう

板橋区の農業は、様々な種類の農作物を少量ずつ栽培する
「少量多品目生産」が特徴です。

また、「地産地消」にも力を入れています。

出典 板橋区「令和4年6月10日 農業体験農園で、子どもと一緒にじゃがいも収穫体験！」
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kusei/kouhou/houdou/1039916/1040013.html>

育てている作物

野菜類	ジャガイモ、ダイコン、エダマメなど
果樹類	ウメ、アンズ、クリ、イチジク、ブドウなど
花卉類	サイネリアやシクラメン

富士見高原の
農業と全然
違うね！！



富士見高原 地形と地質

板橋区

【地形】

平均海拔30メートル前後の武蔵野台地と荒川の沖積低地で形成されている

北部・・・低地

⇒新河岸川と荒川に挟まれた地点
(約2m)

南部・・・高台

⇒徳丸変電所付近(約35m)

【地質】

武蔵野台地の一部

⇒数万年前は、はんらん原であった

後にはんらん原を掘り下げる

⇒取り残された部分に火山灰が堆積し、この台地をつくった

富士見高原

【地形】

低地⇒下蔦木釜無川川床
(700m)

高台⇒八ヶ岳主峰の赤岳
(2889m)

東部⇒八ヶ岳連峰を背
なだらかな傾斜地

西部⇒赤石山脈を控え、平地が
少なく、起伏に富んだ地形

【地質】

東⇒団結堆積物、堅硬な砂岩、
泥岩互層が広く分布

西⇒火山性岩石、集塊岩、
凝灰角礫岩、安山岩質岩石が
広く分布



～文化財～

◎富士見高原

- 井戸尻遺跡**→縄文時代早期～中期のもの

- ・**土器**が出土→



- ・井戸尻遺跡**復元住居**→
(**竪穴住居**)

=復元内容=
柱の配置や炉など



- 尖石遺跡**→石器時代のもの

- ・**土偶**が出土→



- ・「**登呂**」「**平出**」遺跡と共に
日本三大遺跡の1つ



- ・**復元住居(竪穴住居)**→

◎板橋区

- 茂呂遺跡**→旧石器時代のもの

- ・**茂呂型ナイフ形石器**が出土

↓

- ・平成11年(1999年)に
都の**有形文化財指定**



- 東京大仏**→昭和52年(1977年)開眼

↓「天災」「戦災」が2度と
起きないようにとの
願いが込められている

- ・日本で**3番目**に大きい
重さは32トン 長さは13m



(2) 自然環境について考える学習 (第8学年)

環境教育実践研究部会のプログラムとして8年生理科では、「すてられたプラスチックと生物」というタイトルで授業を行いました。カメやクジラのお腹の中から「プラスチック」の破片がたくさん出てきました。プラスチックの破片がエサに見えてしまい、誤って食べてしまうことがあるそうです。

そこで、プラスチックについて正しい知識を知り、3Rの意識を高め、再利用について知りました。

すてられたプラスチックと生物

ねらい

○プラスチックが自然の中に捨てられると、生物があやまって食べて、命を落としていることを知ります。

○カメなどがプラスチックを食べて命を落とすことがないようにするためには、どうしたらよいか、自分たちでできることを考え共有します。

どうすればいいでしょう？

3R

1. できるだけ使わない(リデュース)
2. くりかえし使う(リユース)
3. 資源としてまた利用する(リサイクル)

4, 5はどうしてだいじなの？

4. できるだけ自然のものを使う
5. 土の中などで分解されるものを使う

その他

リサイクルする

ペットボトルのリサイクル



（３）自然環境や科学技術について考える学習（第９学年）

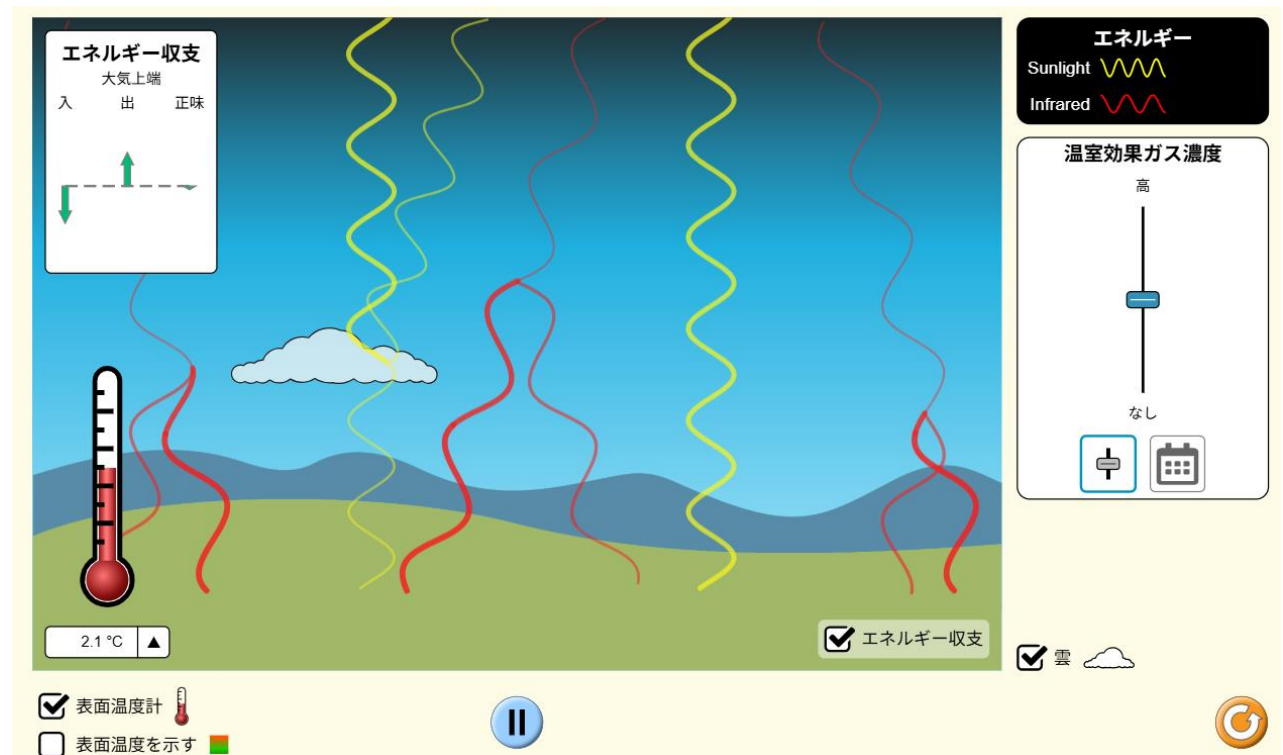
地球温暖化の原因についてシミュレータを用いて考えました。「温室効果ガス」が原因になっていると考えた生徒が多く、自分たちがこれからやらなくてはいけないことについて関心を深めることができました。

次に、科学技術のあり方について考えました。まずは、自分の身の回りにある科学技術をもとにテーマを設定しました。その後、そのテーマをもとに

- ①過去と比べて何がどのように変化したのか。
- ②今後どのように発展していくのか。
- ③その技術の発展により、期待されることや心配になること。

について考えました。

設定したテーマについては、「人工知能」「ハイブリットカー」「医療」が多かったです。自分たちの手間を省くことや、これまでの生活の中で困難に感じていたことを克服するために利用できるといった期待している意見が多かったです。



(4) 植物を育てる学習（特別支援学級、園芸部部員）

特別支援学級や園芸部を中心として、学校の花壇を活用し野菜や花の育成活動に取り組みました。今年度はキュウリ、ナス、ミニトマト、ピーマンなどの夏野菜のほかに、ヒマワリやチューリップ、マリーゴールドなどの花の栽培も行いました。土壌作りから収穫まで一連の作業を通して体験することで、食べ物を作る大変さと収穫の喜びを体感しました。また理科の授業では温暖化問題について触れ、温暖化がもたらす異常気象が野菜の育成に与える影響について学ぶ貴重な時間となりました。



2 清掃活動

近隣の小学校と連携した地域清掃

自分たちの住む街のようすを観察し、落ちているゴミを拾う取組・地域清掃を7年生で行いました。今年は近隣の小学校(高島第一小学校と新河岸小学校)の児童とともに、協力し合ってゴミを拾い、街をキレイにする取組を行いました。清掃活動を終えると、自分たちが拾ったゴミの多さに驚く生徒や、分別の難しさが再認識できたという気付きがありました。

↓ 赤枠の部分が生徒・児童が清掃した場所になります。



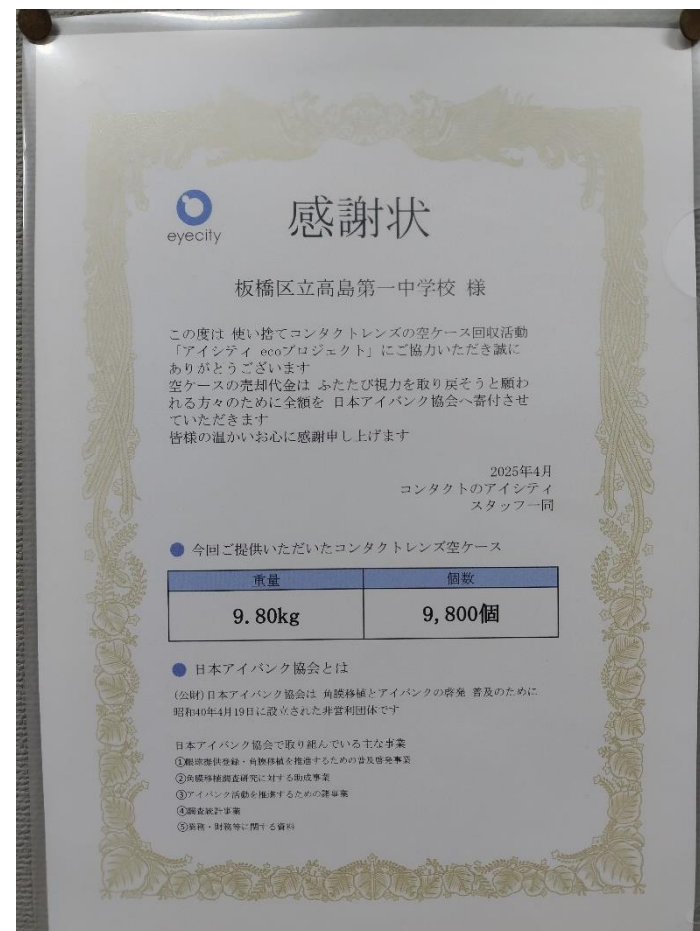
● リサイクル活動 ●

1. コンタクトレンズの空き容器を回収する取組

「かきくけコンタくんの集めようプロジェクト」

保健室の前の廊下に回収箱を用意して、使い捨てコンタクトレンズの空き容器を回収しています。回収したものは、日本アイバンク協会で行っている「アイシティ eco プロジェクト」へ送っています。空ケースをゴミとして燃やさないこと、そして、プラスチックをリサイクルすることで、環境保全につながっています。

昨年度は**重量 9.8 k g、9800 個**の空き容器が集まり、右図の感謝状をいただきました。



2. 給食での取り組みについて

牛乳パックのリサイクル

給食で牛乳を飲むと出る牛乳パックを回収し、水で洗い、リサイクルをしています。

12 つくる責任
つかう責任



● 食 育 ●

1. 食材の良さを知る取組

食材の生産地や生産者、給食がつくられるようすを紹介することで、生徒に食材への理解と関心をもたせ、食べ物を大切にし、生産者への感謝の気持ちをもつとともに食生活の改善や健康増進を図る取組を日々、行っています。

【概要】

- 「とれたて村」, 「板橋ふれあい農園会」給食(月に1回実施)
とれたて村(板橋区と交流のある市町村が集まったアンテナショップや大山商店街および上板橋商店街)や板橋ふれあい農園会(区内農家)から新鮮な食材を購入し、「とれたて村」, 「板橋ふれあい農園会」給食がつくられています。
- 給食だよりで毎月の給食や季節ごとの食に関する知識、「とれたて村給食」、「板橋ふれあい農園会給食」のことを紹介することで食材のつくられ方やおいしさの秘訣を生徒に伝えています。(月に1回実施)
- 昼の放送で食材の紹介やおいしさについてアナウンスをしています。(毎日実施)
- 給食がつくられるようすを写真に撮り、職員室前に掲示することで、生徒に食材への理解と関心をもたせる取組を行っています。(毎日実施)



2. 食品ロスを減らす SDG s 給食

食品ロスを減らす SDG s 給食の実施をしました。SDG s 給食とは、本来であれば、捨ててしまう食材を取り入れてつくる給食のことです。本校では出汁を取り終わった出汁がらを捨てずに、ふりかけにして、食べました。食品の廃棄を減らし、捨てるはずだったものを美味しく食べることができました。そのおかげで生徒たちも残菜をなくそうと、たくさんの給食を食べるように心がけている生徒が多いです。

7/2(水) エス ディー ジーズ SDG s 給食

だしをとった後の けずり節と昆布を再利用して「エコふりかけ」を作りました



①だしをとった後のけずり節の水気をよく切っています

②ほぐしたものを鉄板に広げてオーブンへ

③パラパラになったけずり節

④けずり節、昆布、白ごまを調味料と合わせて炒め煮ます

エコふりかけ

出汁をとった昆布と鰹節をつかったエコふりかけの給食



いたばし学校給食を通じた食育の取組紹介

板橋区立高島第一中学校の給食

つづける、つながる・・・「バクバクタイム」の取組の軌跡

つづける ～日々の発信～ 高島第一中学校では、給食日より「バクバクタイム」を毎日欠かさず発行し、その日の給食にちなんだ話題や情報を届けています。

1年前に「給食室通信」から名称変更。保健給食委員会で話し合った3家の中から、全校アンケートを実施し、「バクバクタイム」に決定しました。

出来たての給食を撮影し掲載しています。学校のホームページから読むことができます。その他に校内用として、食器等を記載したものも各教室に配られます。

7月「バクバクタイム」

給食時間に、毎日「バクバクタイム」を読み上げ放送します。放送委員が読みやすいように、すべての漢字にふりがなを振っています。

校内には1か月分の「バクバクタイム」が掲示されており、生徒たちがよく読んでいます。学校行事等にちなんだ、日々特色のある献立を、記事から振り返ることができます。

高島第一中学校が加盟しているユネスコスクールのホームページに、「SDG s 給食」の「バクバクタイム」の記事が紹介されました。

つながる ～多職種連携～ 「バクバクタイム」は他職種と連携した様々な取組の様子も発信しています。

BOOKメニューの日の「バクバクタイム」

「給食×読書コラボ」企画では、司書と連携し「カレーライスをフェア」と題して、BOOKメニューが実施されました。実施日前後の約1か月間、展示コーナーが2か所設けられ、BOOKメニュー実施後も、生徒が本を手にとったり、掲示物を見に来たりする姿が見られました。

図書室 給食室前

BOOKメニューの紹介や献立者にちなんだクイズ

給食時間の放送♪司書による本の朗読に耳を傾けながら喫食しました。

昨年度から、「学びのエリア」内の高島第一小学校と「BOOKメニュー」の交流が始まりました。司書・栄養士・調理員が、それぞれの分野で小学校と連携し、展示物や献立の共有、調理のアドバイスなどが行われました。

読書のまち板橋

安全だよりの発行と月に 1 回の防災訓練を行っています。
高島第一中学校は、火事や地震を想定した避難訓練の他に、近くの新河岸川が氾濫し、洪水が起こることを想定した垂直避難(4階への避難)や突然起こる避難訓練(シェイクアウト訓練)などを行っています。

